

科学博物館ニュース速報

No.7 June 1, 2013

第7号 2013年6月1日

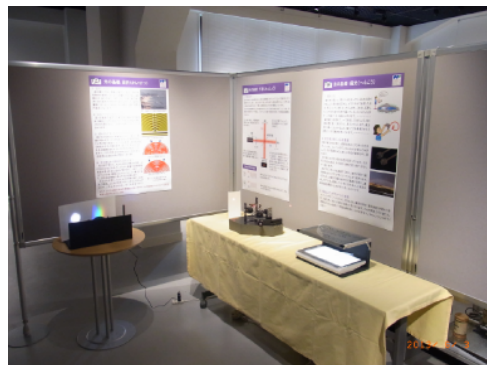
企画展

「未来を照らす光の科学」 好評開催中!

6月1日から9月28日まで4ヶ月にわたる企画展「未来を照らす光の科学」が開催されます。

工学研究院には、複数の部門にわたって光学、量子光学を専門分野とする教員が多数在籍しています。そこで、これらの教員の最新の研究成果を組織横断的にまとめ、一般の方々にも分かりやすく紹介する企画展「未来を照らす光の科学」を企画立案しました。光技術を利用したマイクロ、ナノ領域における様々な計測・評価・診断方法および光学材料について紹介しています。特に、一般市民、小中高校生にも興味を持てるような展示をするため、最新研究成果の基礎になっている光に関する物理現象（干渉、回折、偏光、散乱など）を実物展示あるいは動態展示等によって楽しみながら分かりやすく説明するコーナーを設けました。光学を専門としない学生にも観覧を勧めたい内容です。

この企画展は、学内公募型の企画展を将来的に推進するために、学内教員



企画展「未来を照らす光の科学」

研究グループからの提案に基づいて博物館運営委員会での承認を得て企画されたものです。今後、企画展は学内公募型および工学府広報戦略委員会推薦で進めていきます。近日中に、来年度前期の学内公募型の企画展を募集しますので、ご興味のある方は、ご検討ください。

(科学博物館特任助教・高木愛子)

「国際博物館の日」で 多数のイベント開催

国際博物館の日は、世界の博物館関係者によって組織される国際博物館会議（ICOM）によって、1977年に制定されました。博物館の社会的な重要性についての普及啓発を行うことを目的とするものです。毎年、5月18日を中心に全世界の博物館がこの趣旨に賛同して様々な記念事業が行われています。今年も、IMD2013として世界共通テーマ「博物館（記憶と創造）は未来をつくる」のもとに日本博物館協会が会員館に呼びかけ、その事業内容を施設名とともに公表しています。

本館も、リニューアル後初の「国際博物館の日」に協賛して3つの団体の支援のもとに次のイベントを実施しました。

1) 博物館ツアー：博物館学生支援団体Mussetにより、5回（1回当たり1時間）の館内の展示品の説明ガイドツアーを実施しました。ある時間帯では多くの方々の参加があったため、急遽2班に分けてガイドツアーを行う盛況ぶりでした。Mussetの学生のみなさんも3月から展示品説明のトレーニングを繰り返して準備をしてきたため、堂々とした説明で、来館者からの質問にもしっかりと答えて好評でした。

2) 友の会によるワークショップ：科学博物館友の会会員の皆様による工芸品作成の体験教室を開催しました。内容としては①組みひもづくり体験、②貝殻ストラップづくり、③生糸と押し花のしおりづくりの3つが開催されました。当日は、11時からの開始でしたが、参加を希望する来館者が10時過ぎには来られ、列ができるほどの賑わいでした。

3) 紙飛行機製作：農工大航空研究会による紙飛行機の製作を実施しました。受講者の年齢に応じて難易度が異なる紙飛行機の製作法を準備しました。部員の丁寧な指導もあって低学年

の小学生も製作を楽しんでいました。製作した飛行機を博物館講堂に持って行き、実際に飛ばして、より遠くまで飛ばすように何度も調整する姿が見られました。また、子供にせがまれて紙飛行機の製作にきた親御さんも難易度の高い紙飛行機に挑戦し、親子で一緒に楽しんでいる光景も見受けられました。

この他にも、繊維技術研究会会員による繊維機械の動態展示も行われ、来館者の目を引きつけていました。

今回は、博物館周辺の家庭にも新聞折込広告を通してイベントの宣伝を行い、それが功を奏して198名の来館者があり、成功裏に「国際博物館の日」を終えることができました。ご協力いただいた繊維技術研究会、博物館友の会、Musset、農工大航空研究会の皆様には紙面を借りてお礼申し上げます。

(科学博物館特任助教・高木愛子)



館内ガイドツアー



友の会ワークショップ



完成した飛行機を飛ばす子供たち

紙飛行機教室を開催して

博物館日誌

航空研究会代表 田中一平

私たち東京農工大学航空研究会では、年に数回、他大学や農学部などで主に小学生以下の子供たちと紙飛行機をつくるイベントを行っています。今回、自分たちの所属する大学の博物館での企画の一つとして声を掛けて下さり、有難うございました。

初めてのイベントだったようで、未知のことが多く、準備の段階では心配がありましたが、予想以上に沢山の方が来て下さって非常に嬉しかったです。小さな子どもたちだけでなく、そのご両親や、祖父母の方々もいらして下さり、みんなで楽しまれている姿は特に印象的でした。

ご来場者の方には作ってもらうだけでなく、私たち自身も、風のない広い場所では紙飛行機を飛ばせる場所を取れることはあまりないので、少し手の込んだ、模造紙で折った大きな折り紙スペースシャトルや、円筒型飛行体などをつくり、子供たちと一緒に楽しむことができました。参加して下さった方々が、これを機に『モノづくり』に興味を持っていただければ幸いです。

博物館の職員の方々、Musetの方々のおかげで、非常に有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。

この展示に注目 ⑤

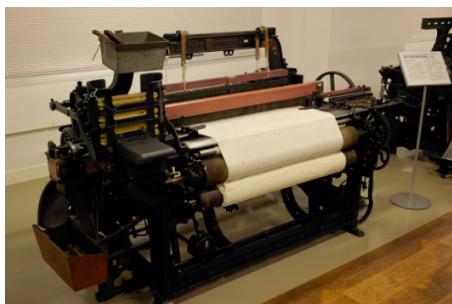
無停止杼換式豊田自動織機

トヨタグループ創業者の豊田佐吉が昭和初期に発明した織機です。別名G型織機とも言われます。

織機の横糸がなくなると、織機を止めることなく、横糸を供給している杼(シャトル)を自動的に補給する仕組みを導入した織機です。これによって、作業員1人が扱える織機の台数を増やすことができるようになり、織物の生産能力は飛躍的に高まりました。

この織機は現存台数が数台しかない貴重な織機関係資料です。当館が所蔵しているのは1927年(昭和2年)製造のものです。現在、装置の鋳物の一部にひびが入り動態展示を休止中ですが、近日中に修理をして、往事の甲高い音で杼が移動する姿を復元させる予定です。ご期待下さい。

(科学博物館助手・真貝哲夫)



G型織機

H25年4、5月は、新年度早々と言うことで、新入生の来館や前述の国際博物館の日のイベントがあり、4月が1327名、5月が1417名の入館者数でした。この間、トゥルスノフ ウズベキスタン大使様、岡野富岡市長様、稲葉小金井市長様、木村ニココン社長様等東京農工大学にとって大切なおお客様にご来館いただいております。また、小金井市役所と共に小金井市を盛り上げるキャンペーン(ウォキングラリー、小金井お弁当祭り等)に博物館も参加していますので、そのイベントに関連した来館者もいらしたかと思えます。

ところで、入学式当日の午後、農学部生と工学部生の新1年生女子学生2人の来館がありました。「東京農工大学を深く知りたくて、博物館に来ました。」とのことでした。博物館には農工大の歴史等の展示があることをどのように知ったのでしょうか?博物館では、本学の歴史を明治7年(1874年)にまで遡り、日本の近代産業史を考察することができます。その上で、自分の将来を考えることは大変重要なことではないでしょうか。

館長の研究室卒業生で在学時に博物館に来館経験を持つ学生は10%に満たないとのことで、教育施設としてこれまで博物館を使わなかったのは大学としても大きな損失だと常々言われていました。そこで、本年度から新1年生には博物館見学を必須にする取組みを行っています。まずは、4月に情報工学科新1年生の拡大新入生オリエンテーションで博物館研修が行われ、学生数入館者数が増加しています。さらに、6月初旬には情報工学科以外の学科の1年次科目「工学基礎実験」で博物館研修が行われます。今回の取組は、工学部学生のみですが、可能であれば、農学部学生にもご来館いただけるような機会があればと思っています。

それにしても先の女子学生が絶えずニコニコしていて、2人揃って、東京農工大学に入学できたことがよほど嬉しかったのでしょう。

(科学博物館事務・北川和幸)



ウズベキスタン大使(右から2人目)と談笑される松永学長



ウズベキスタン大使を囲んで記念撮影



見学される稲葉小金井市長(右から2人目)



《博物館活動カレンダー》

★企画展開催中!



「未来を照らす光の科学」

会期：6月1日～9月28日

★子供科学教室

6月22日「カイコの繭から糸を繰ってみよう!」

7月6日「博物館で撮影会!」

8月3日「親子でチャレンジ!手作りロボットレース」

9月7日「身近な動物教室」

★繊維技術研究会講演会

場所・時間：講堂、午前10時～12時

6月18日(火)「紡績体験のあれこれ」
西村俊勝氏7月16日(火)「青梅地域の繊維産業の盛衰～その中でブランド確立を目指す～」
永井徹氏

★友の会サークル講習会

6月26日午前10時30分～午後3時 組みひもサークル「くるくるロングネックレス」

7月5日 藍染サークル

「科学博物館ニュース速報」第7号

◆発行日 2013年6月1日

◆編集 科学博物館ニュース編集委員会
梅田倫弘・高木愛子・真貝哲夫

◆発行 東京農工大学科学博物館